

研究部会報告



●イノベーション●

・第29回

日 時：平成10年11月14日(土) 14:00~17:00

出席者：8名

場 所：中央区新富ワーカーズ・サポートセンター

テーマと講師：『孟子』そして「浩然の気」

上田亀之助

『孟子』は今から2000年以上昔の戦国時代にまとめられた文献ですが、現在の政治・経済・経営・管理活動のオペレーションズ・リサーチ作業の拠り所として、なかなか役に立つものであります。その推奨する「浩然の気」という作業態度は閉塞感の強い混迷の20世紀末の環境の克服に好適なものであります。

●ファジィ動的計画法●

日 時：平成10年11月16日(月) 18:00~20:00

場 所：日科技連

テーマと講師：「交互交通流の解析と制御」

鈴木誠道 (千葉工大)

片側各一車線の道路でその一車線の一部が道路工事などで塞がれていて、残りの一車線区間を両方向の交通が交互に利用するとき一車線区間の端には、車の待ち行列ができる。待ち車には、一般に交通の切り替えまでの時間と発進時の遅れに分解される遅れ時間が生ずる。

本発表では、このような状況をモデル化・解析した結果を明らかにした。数値結果では、両方向のトラヒックの干渉に関する興味深い知見を紹介した。

●待ち行列●

・第139回

日 時：平成10年11月21日(土) 14:00~16:30

出席者：24名

場 所：東京工業大学 本館1-94号室

テーマと講師：

(1)「吸収過程」 中塚利直 (東京都立大学)

待ち行列に現れる確率過程の安定性について、マル

コフ過程に関するものと非マルコフ過程に関するものについてサーベイを行った、特に、非マルコフ的なアプローチの重要性を指摘し、3つの代表的な確率過程として、regenerative過程、Borovkovのrenovation過程、著者が提案している吸収過程を比較した。regenerative過程のrenewal事象がBorovkovによりrenovation事象へと拡張されたことと、吸収過程における不遡及性がrenovation事象の拡張となっていることの説明があった。

(2)「Controlled Markov Set-Chainsについて」

歳野正美 (千葉大学)

有限個の状態を持つマルコフ決定過程において、状態推移確率行列の上限と下限だけがわかっている場合に、最適な政策を決定する方法を論じた。期待報酬は無限期間において割引率がある場合とない場合の両方について考える。HartfielによるMarkov set chainの結果から、可能な推移確率行列の集合が凸多面体になることを指摘し、この多面体の端点を使って計算を行う。これより、各政策に対する期待報酬額の範囲は閉区間になる。これらの閉区間の集合に半順序を導入し、この順序の下での最適定常政策を決定した。

会 合 記 録

11月10日 (火)	機関誌編集委員会	4名
11月12日 (木)	研究普及委員会	8名
11月17日 (火)	庶務幹事会	5名
11月20日 (金)	理事会	13名

第4回理事会議題 (10-11-20)

平成10年度第3回理事会議事録の件

秋季支部長会議議事録の件

入退会承認の件

役員選挙の件

日本学術会議第14回シンポジウム収支報告の件

各委員会報告

平成11年度事業計画(案)及び予算(案)提出依頼の件

第40回シンポジウム終了及び決算報告の件

平成10年度秋季研究発表会終了及び決算報告の件

テクノOR講座終了報告の件

第2回OR企業フォーラム開催の件

第41回シンポジウム予算(案)の件

ホームページの件

その他